

障害者アート作品
を使った
商品化プロジェクト





ごあいさつ

障害者アート作品を使った商品化プロジェクト 小冊子の発行について

障害のある人の工賃向上及び一般就労に向けた新しい働き方として、障害のある人が描いたアート作品を使った商品化の事業を本年度実施しました。本小冊子は、静岡県障害者支援局の事業として、障害者アートを使った自主製品の商品化を目指し、実践の経過を現したものです。

ここで紹介する作品や製品は、県内17ヶ所のB型事業所で自由に表現したり描いたりしたアートを単独若しくは協働し創り出したものです。どれも、素晴らしく作家としての感性が溢れたものとなっております。静岡県でも2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化事業が始まってきています。本活動がそうした動きの助走の一つになればと考えています。

どうぞ、障害のある方の感性をお楽しみください。

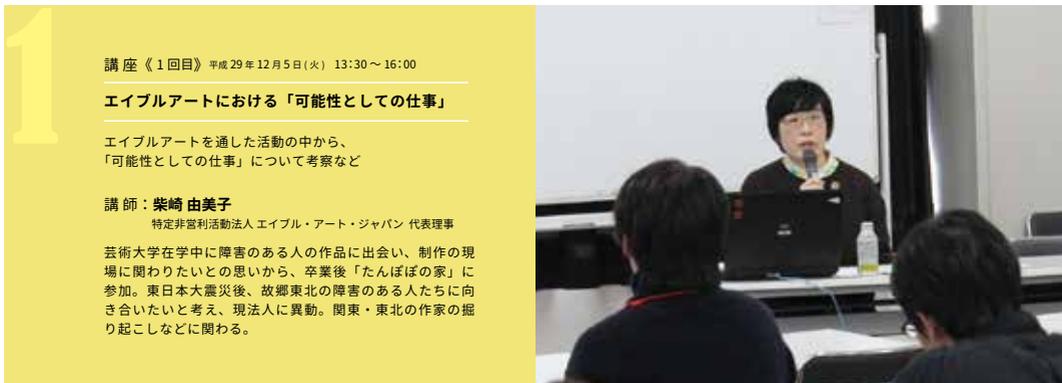
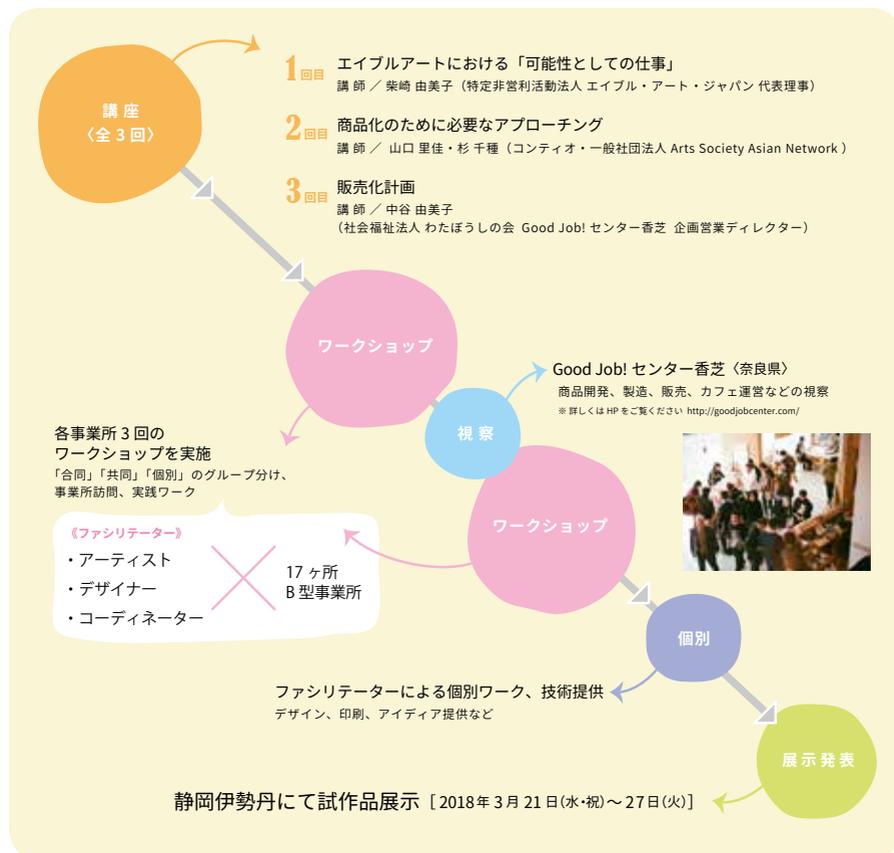
平成30年3月

NPO法人 オールしずおかベストコミュニティ

専務理事 鈴木 良夫

プロジェクトの流れ

障害のある人の創作活動を通じたモノづくりに関する支援を行うことにより、新しい製品の開発に繋げる「アイデアソンとしての商品開発」を目標に、工賃向上及び一般就労への移行促進を図ることを目指し、静岡県内17ヶ所の就労継続支援B型事業所を対象としたプロジェクトが始まりました。静岡県内のアーティスト、デザイナー、コーディネーターを交え、表現活動・モノづくりへの取り組み方について学ぶワークショップ形式の実践ワークと外部講師による講座。さらに、奈良県のGood Job! センター香芝^{*}への視察を実施。表現活動をどのように捉え、今後に繋げていけるのかについて、多方面からアプローチをした活動となりました。



はたらき方と表現活動

就労継続支援B型事業所では、障害のある人に対して福祉的サービスの提供をしています。

また並行して、就労する機会（一般企業等への就労が困難な人に）を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練を行います。

今回集まっていた17の事業所の中にはオリジナル商品の制作をすでに実施しているところもあれば、研修を機に初めて取り組もうと動き出したところもありました。スタートや環境は違えど、表現活動をどのように捉え、どのように事業所内で行っていくか、どの事業所も共通して考え、また悩んでいるように感じます。しかし、表現の豊かさとはたらき方の多様性は、個々の可能性や自立に繋がっていくのではないのでしょうか。

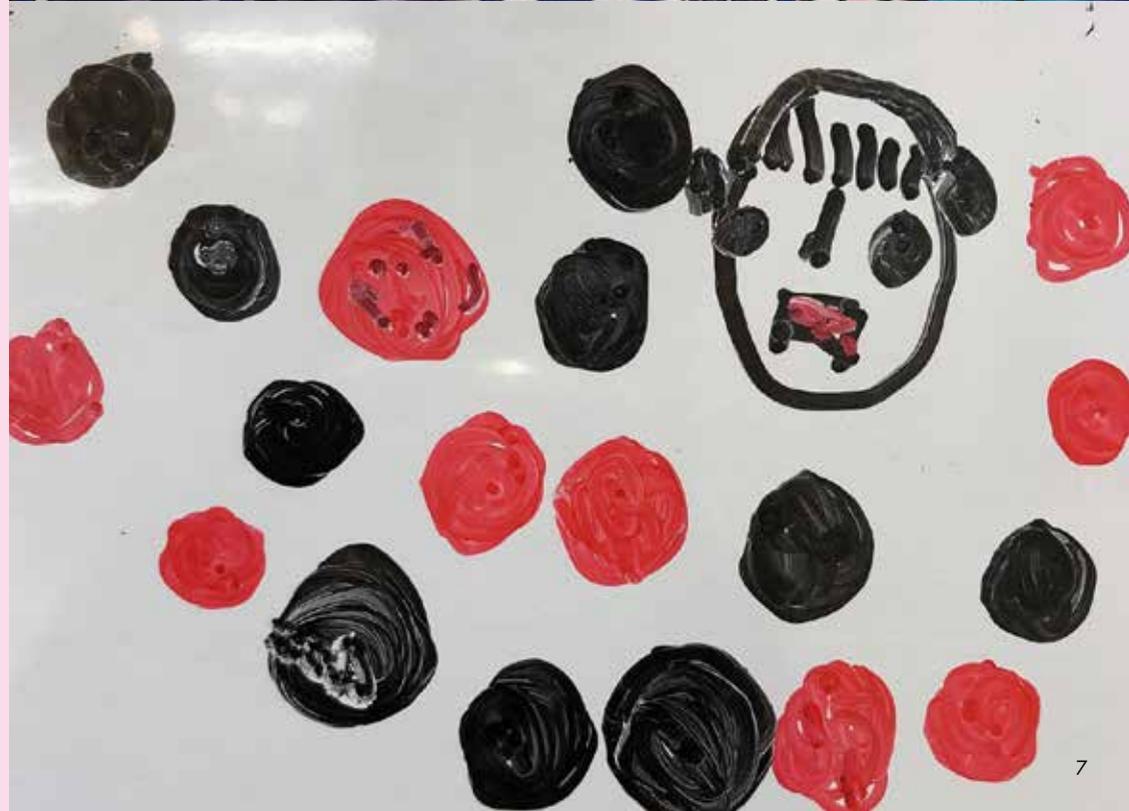


「合同」 ワークショップ第1回目

外部講師を招き行われた、全3回の講座。商品や商品化への道すじに大きな期待を感じ、そして同時に浮かび上がったのは不安や疑問でした。

その後第1回目のワークショップを開始。県内地域ごとに組まれたチームとファシリテーターとの合同ミーティングは、持ち寄った想いが互いに浸透してゆく現場でした。「どんな画材を用意したらいいのか」「この絵を何か形にしたいのだけど…」各々の持つ悩みも、商品化へと向かうはやる気持ちも、まずは少しだけ、まわりの事業所と話しながら互いに耳を傾け、ともに考えます。

どこか他人事ではない「わたしたち」の、表現を発端としたモノづくりがゆっくりと始まります。



「共同」 ワークショップ第2回目

合同ワークショップで見た各事業所の印象や商品化への段階。

第2回目ではそれらを踏まえたグループを組み、会場となる事業所に訪問する形で行いました。

表現の時間や場所が確保できないという事業所も多く、まずはきっかけのワークとして表現の機会を考えるとそこから始まりました。「日常の仕事」の中にどのように表現をする場が現れ出すのか？またその場をどう続けていけるのか？それぞれに抱える想いや問題点がある中、共同の現場で生まれたささいなやり取りには思いのほか共有できるアイデアが潜んでいることに気づき、その芽生えを丁寧に拾い上げます。人を介した現場で生まれる創造力は、表現が商品になった以後も物語としてそこに生まれ続けます。

一人で抱えているよりも、近くの「誰か」と共有して行くことで道は少しずつ開いて行くのかもしれない。外部の人を突然呼び入れることには難しさもあるけれど、話をする機会を増やすことを続けていく価値がそこにあると感じます。



「個別」 ワークショップ第3回目

各事業所ごと個別に話を進める段階となりました。

実際に手を動かすワークをした事業所もそうでなかった事業所も、合同・共同のワークを経て、自分たちが本当に望むことは何だったのかここでようやく見つめ直していきます。

今まで培ってきたこと（技術や経験）を大切にしつつも、楽しい、面白い、ワクワクする、こうしてみたかった—そんな個人の感覚に期待または少しの自信をもって動き出します。そしてデザイナー、アーティストと一緒に試作品を制作するモノづくりの現場へとワークは急速に変動していきます。個人の絵をもとにみんなでグッズを制作してみたり、今までの製品づくりの工程を見直したり。また、オリジナリティがどこに潜んでいたのかを再確認し、製品ではなくパッケージを考慮したりと様々なプランが出てきました。

ある人の自由な表現によってつくられる自由な商品があり、それを手に取る人の自由な価値観によって再解釈されることや、そこに関わる全ての人やモノ、現場の一つひとつが新しいはたらき方への道すじを照らしていけるようにと「障害者アート作品を使った商品化プロジェクト」がスタートしたのだと思います。



試 作 品

Original products

各商品の制作元は事業所一覧をご確認ください。

Tote bag



B ラポール川原 みなみ
ミニトートバッグ
缶バッジ



A EPO FARM
Newパッケージの
オリジナルフェルトグッズ



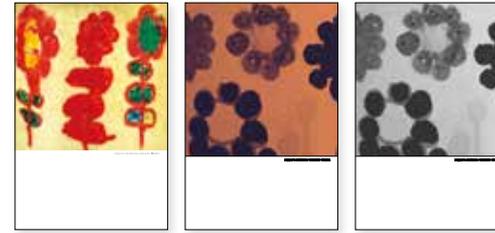
C ワークライフみしま
水引-彩 irodori 《色各種あり》



E
なごみかぜ工房



刺繍とガーゼ ハンカチーフ 各 ¥850



Post Card

ゆにーくレター 各 ¥100
クマでした。キーホルダー ¥500
ペンケース ¥1,200



G りな☆ コースター2種



H ありんこの里

ITALU MAT イタルマット

Original products



F
ラポール安徳川



Art Prints



I ワークショップくるみ

アートプリント ¥10,000
マグカップ ¥1,500~1,800

木材にオリジナル原簿を
シルクスクリーンプリントで
仕上げます。おさかなの形に
カットしてモバイルを作ります！

D げんき☆
おさかなモバイル

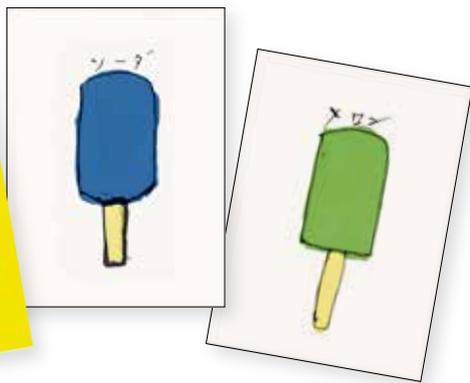


J それいゆ

ミニカード 各種
Bookカバー

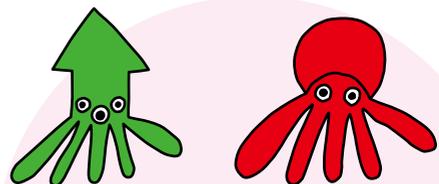


Mini Card



O ラボール・チャクラ

フェルトグッズ
Tシャツ
木製マグネット



いかグリーン

たこレッド



たつのおとしごイエロー

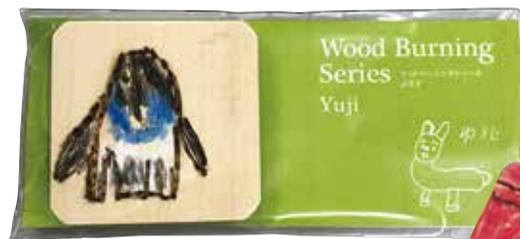
K エシカファーム

刺繍ピアス

刺繍のピアスになるよ!



L マミー・ウア・サポート友の風
花火クッション
A4クリアファイル



P ラボール川原
Wood Burning Series マグネット
ポストカード



Post Card

M サンサンいわた (東京)
お祭り屋台NOTEBOOK



N きほくのもりおペンタス

お守り袋



Q Mネット東通
包装紙2種
クリアシール



事業所一覧

事業所名	TEL	メールアドレス
A EPO FARM	0544-21-9533	indy-work@royal.ocn.ne.jp
B ラポール川原 みなみ	054-284-7684	kawaharaminami@s-ikuseikai.jp
C ワークライフみしま	055-976-2545	info@workfair.co.jp
D げんきむら	054-646-0218	genkimura@apha.ocn.ne.jp
E なごみかぜ工房	0538-45-2771	nagomikaze@cup.ocn.ne.jp
F ラポール安倍川	054-273-2850	abekawa@s-ikuseikai.jp
G りなむ	0547-46-1687	rinamu@hcc-kokoro.jp
H ありんこの里	054-284-4054	arinko@cotton.ocn.ne.jp
I ワークショップくるみ	053-440-4666	workshopk@fukusenikai.org
J それいゆ	054-288-6077	sore288@gmail.com
K エシカファーム	055-994-9831	http://ethicafarm.com
L マミー・ケア・サポート友の風	054-296-6233	tomonokaze@cy.tnc.ne.jp
M サンサンいわた (東原)	0538-34-8120	sansan-iwata@aqua.ocn.ne.jp
N きほくのもり☆ペンタス	0537-28-0954	kihokupentas@gmail.com
O ラポール・チャクラ	054-285-9066	chacra@s-ikuseikai.jp
P ラポール川原	054-259-3119	kawahara@s-ikuseikai.jp
Q Mネット東遠 (まんま亭)	0537-22-4826	manma-4826@ia5.itkeeper.ne.jp

商品販売については各事業所へご確認ください。
本事業で製作された商品には試作品も含まれており、数に限りがある場合がございます。



私達にとって描くことやつくることの価値はすぐに目の前にあらわれないことが多い。
途中で止めてしまうことや方向を逆に辿ることもあるだろう。
表現するということは、そうしたしかし有機的な行為である様に思えるのだ。
では、描くことやつくことはどの様にして切実なこととしてあらわれてくるのだろうか？
おそらくそれには様々なあらわれ方があるに違いない。

このプロジェクトを通し私達は色々な意見や想いを交わすことでこれまでの見え方が少し
違ったものとして感じる事が出来たのではないかと実感しています。
これが始まりとして、少しだけ気づく。
小さなことや些細なことがきっかけをつくるのだから、
時には勤に頼ることも大切な感覚のひとつなのだと実感する。
ひとつひとつの気づきが新しい仕事を生み出すこともあれば、
表現の自在に可能性を見つけることもあるでしょう。
だからこそ留まらないようにする事でひとつの出来上がりから、
また次の始まりを予感するのです。
循環して流動的な表現のあらわれ方に、私達の期待は込められているはずです。



障害者アート作品を使った商品化プロジェクト

《冊子》

2018年3月21日発行

アートディレクション/ホシノマサハル

デザイン・編集/ウエダトモミ

コピー・写真/こながやさき

企画/NPO法人オールしずおかベストコミュニティ

〒420-0031 静岡県静岡市葵区呉服町2-1-5 風来館4階

発行/静岡県健康福祉部 障害者支援局 障害者政策課

〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9番6号

※本誌掲載の記事、写真の無断転載、使用を禁じます。

《ワークショップファシリテーター》

遠藤次朗（ピースデザイン）

ウエダトモミ（BOB ho-ho）

古原彩乃

ホシノマサハル（BOB ho-ho）

